

## 環境調査結果のお知らせ

令和8年5月27日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

### 概況

検鏡の結果、3月9日から3月18日まで赤潮（緑色の着色）を形成していたハプト藻類と同一と考えられる植物プランクトンが最高で150 cells/mL確認されました。また、魚類に対して有害な**カレニア・ミキモトイ**が**最高で55 cells/mL**、シャットネラ属が最高で3 cells/mL確認されました。また、主に麻痺性貝毒の原因種とされる**アレキサンドリウム属**が**最高で23 cells/mL**確認されました。**カレニア・ミキモトイ及びアレキサンドリウム属は増殖傾向にありますので、十分に注意してください。**

このほか、魚類に対して有害なヘテロシグマ・アカシオが最高で50 cells/mL（光松 0 m）、ケラチウム属が最高で32 cells/mL（中学校前 底層）及びカレニア・パピリオナセアが最高で3 cell/mL（大鹿 2 m）確認されました（表未掲載）。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン			
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	カレニア・ ミキモトイ	シャットネラ 属	アレキサンドリウム 属	ハプト藻
A 中学校前 (3.2m) 【09:28】	0	25.4	30.0	8.3	0	3	0	100
	2	26.1	31.5	9.8	2	1	0	0
	5	23.7	32.4	8.7	55	0	0	0
	10	22.1	32.3	4.0	0	2	0	0
	底層 11.5	21.8	32.3	2.4	0	0	0	0
B 光松 (2.3m) 【09:42】	0	25.0	30.6	8.6	0	0	23	150
	2	25.0	31.7	8.9	2	0	13	100
	5	23.6	32.4	6.8	5	0	0	0
	10	22.6	32.4	4.6	0	0	0	0
	底層 16	21.6	32.6	1.4	0	0	0	0
C 大鹿 (2.2m) 【09:52】	0	25.0	30.9	8.7	1	0	0	150
	2	24.7	31.8	8.6	9	1	4	50
	5	23.6	32.4	6.7	4	0	0	0
	10	22.4	32.4	4.4	0	0	0	0
	底層 15.5	21.6	32.5	1.8	0	0	1	0
D 水試小割前 (2.8m) 【10:02】	0	24.8	31.3	8.0	0	0	19	0
	2	24.7	31.9	7.9	0	0	17	50
	5	23.8	32.4	6.6	0	0	0	0
	底層 8	23.1	32.6	4.6	0	0	0	0

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3
				浦ノ内湾
カレニア・ミキモトイ	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月
シャットネラ属	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月
アレキサンドリウム属	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。



A: 中学校前

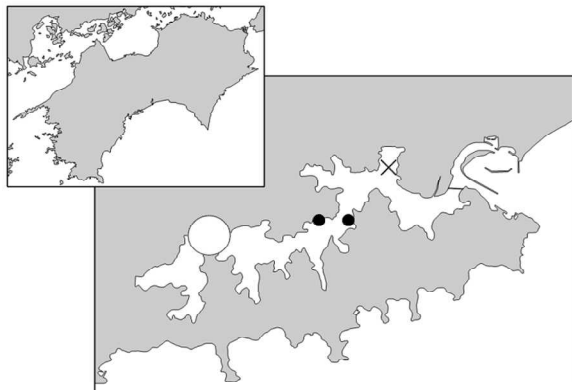
B: 光松

C: 大鹿

D: 水試小割前

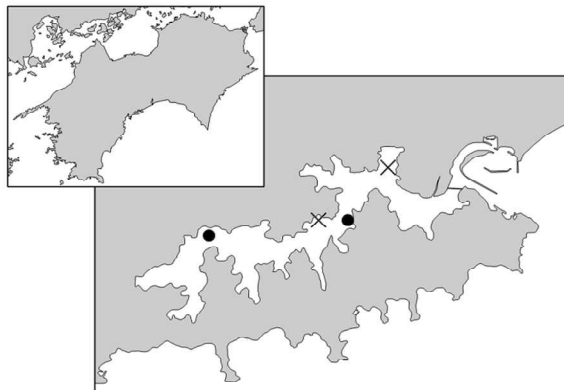
カレニア・ミキモトイ

最大細胞密度



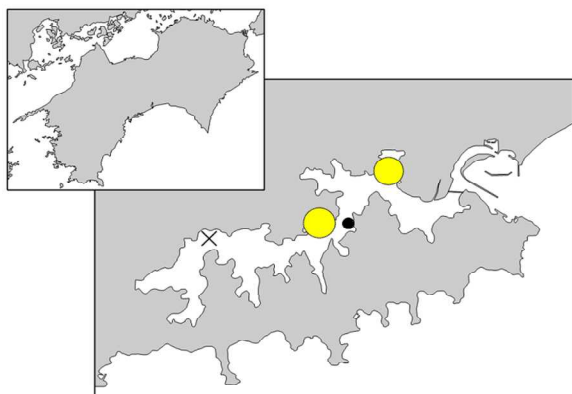
シャットネラ属

最大細胞密度



アレキサンドリウム属

最大細胞密度



ハプト藻

最大細胞密度



凡例

プランクトンの細胞密度を示す円の大きさ  
円のサイズが大きいくほど、プランクトンの数が多いので注意してください。

0 ×    1~9 ●    10 ○    100 ○    1,000 ○    10,000 ○    100,000 ○    300,000 ○

注意・警戒を示す円の色

黄・赤色の円が確認された場合は、魚介類に悪影響が生じる可能性がありますので、注意してください。  
基準値は、「参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準」を参照ください。

注意基準の値以上



警戒基準の値以上

